

ねん がつ
2021年9月

れきし
歴史 — No. 23

けんぱくものしりシート

むつ どふう
陸奥の土風



とうかんへきめん え いちぶ
当館壁面パネル絵の一部



『陸奥の土風』は、幕末から明治時代にかけての画家、小保内東泉によって描かれたものだと伝えられています。正月風景・市日(※1)・秋まつり・南部の角土俵(※2)・盆踊りなどのようすが色とりどりに描かれており、明治時代初期の福岡(現在の二戸市)周辺における人びとの生活のようすを知ることができるとも貴重な資料です。そのため、1969(昭和44)年に二戸市の有形文化財に指定されました。

『陸奥の土風』の風景を見ると、たくさんの人たちが市日に集まり楽しんでいたことがわかります。また、『二戸市史(二戸市の歴史書)』でも、昭和中頃の福岡周辺について「普段は静かな福岡が市日にはお祭りのように賑わっていた」と紹介されています。家庭への自動車の普及が進み、高速道路や新幹線が整備され、大型店が郊外に進出するようになると人の流れが大きく変わりました。しかし、二戸市をはじめ多くの場所では昔ながらの市日が続けられており、地元の人にとって大切な交流の場にもなっています。

※1 『南部絵巻物-陸奥の土風-』で紹介され、現在も行われている市日(定期市)の日程。
一戸(1・11・21)、浄法寺・軽米(2・12・22)、金田一・荒屋新町(4・14・24)
伊保内(7・17・27)、三戸・八戸(8・18・28)、福岡(9・19・29)、田子(10・20・30)

※2 けんぱくものしりシート民俗No.13をごらんください。

それでは、明治時代初期の市日のような^{めいじ じ だいしよ き いち び}市日を^{かんさつ}観察してみましょう。

◆^{ひと ぎゆう ば}たくさんの人や牛馬^{***}

市日^{いち び}のようすが描^{えが}かれた部分^{ぶぶん}には、
500人以上^{にん いじょう じんぶつ}の人物や50頭以上^{とう いじょう ぎゆう ば}の牛馬
が描^{えが}かれています。



かみがた ふくそう せいようぶん か
髪形や服装に西洋文化の
えいきょう う
影響を受けている人^{ひと}たち
の姿^{すがた}もあります(※3)。

◆^{にもつ はこ かた}荷物の運び方^{***}



せなか
背中にのせる



かた
肩にのせる

つるす



むね わき
胸や脇でもつ



せなか
背中にのせる



にぐるま ひ
荷車を引かせる

◆^{みせ しゆるい いち ぶ}店の種類(一部)^{***}



こくるい はんばい
穀類を販売
ひえ だいず
(稗や大豆など)



きもの はんばい
着物などを販売



かいざんぶつ はんばい
海産物を販売
ひもの しおづ
(干物・塩漬)



ちゃ や
茶屋
しよくじ
(食事など)



たけざいく
竹細工の
ざいりょう はんばい
材料を販売

^{あさいち こつとういち さいいち}朝市・骨董市・歳市(※4)など、^{げんざい}現在でもいろいろな種類^{しゆるい いち かくち ひら}の市が各地で開か
れています。みなさんもぜひ、いろいろな“市”に参加して、市日ならではの^{ふん い き たの}雰囲気を楽しんでみませんか。

※3 ^{れきし}けんぱくものしりシート歴史No.15 をごらんください。

※4 ^{しょうがつようひん はんばい いち げんざい みせ おこな ねんまつり だ}正月用品などを販売する市。現在では、店で行う年末売出しのことをいいます。

【参考】『南部絵巻物—陸奥の土風—』熊谷印刷 出版部 1980年 / 『二戸市史 第二巻 近世・近代・現代』二戸市 2001年 / 『ひとつの資料から 歴史—陸奥の土風』岩手県立博物館 1984年 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時
のもの。最新情報ではございませんので、
あらかじめご了承ください。
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆し
ております。



モチちゃん



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/